
エンジェルの仕事

† 楓 †

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

エンジェルの仕事

【Nコード】

N9581H

【作者名】

十楓十

【あらすじ】

ある日、死んでしまった憂覇は天使として、死のうとしている人々を助けていくとゆう仕事を始めるが、ちゃんとこなせるのか！？

#1 自己紹介

(一人、二人、三人……っと。)

「あー！もうっ。何で人って、死にたがんなのかなあ… 本当忙しくてイヤになるよ！…こっちの身にもなってみろっての！」

「まあまあ落ち着いて。最近忙しくて、いらだってんのはわかるけど、人を助けるのがあたしらの仕事なんだから、しょうがないよ。それに、あたしらがそんなことゆう資格ないしね。」

「そうだけどさあ…」

あっ！どーも。初めまして！！
自己紹介まだだったね。

あたしは、新入りの天使やってる「菴寐憂霸あんね ゆうは>16才<」ってゆう

んだ！

あと、あたしの親友の「魅羽藍音^{みわ あいね}>16才<」最近逢ったばっかなんだけど、色んな共通点があるせいかな、すごい気がするの。
ってことで、まあよろしく！

#1 自己紹介（後書き）

初めての連載小説なんで、ドキドキしてますが、ちゃんとした文をかけるようにがんばっていきたいと思うので宜しく願います。
+。

#2 過去（憂霸ber）

あたしは今でも時々下界に居たときの嫌な思い出が蘇ってくる時がある…

早く、忘れてしまいたいのに、なぜか又思いだしてしまう。

まだ、中学に入って間もない頃だったかなー…

その時は、まだみんな緊張していたみたいで何もなかったんだけど、学校に慣れてくると、仲良しグループが決まってきた。

あたしも一応グループに入れたんだけど、

1人だけ仲間外れが居た。

その子はあたしの幼なじみの「黒吞夜由^{くろのやゆ}」。

学校では、本を読んではっかだし、あんまり喋らないから友達とい

えば多分あたし位しかいなかったと思う。

ある日の事だった。

グループのリーダーって感じの「城貴和美（しろき かずみ）」
とあたしがロー力を歩いてると、前から夜由がきた。すれ違う際、
和美と夜由がぶつかってしまい、和美のほうがかけてしまった。そ
の時にケガをしてしまい、和美はこれをきっかけにいじめを始めた。

どんどんいじめはエスカレートしていき、耐えられなくなったあた
しは、ある日とめに入ってしまった。

「もうやめようよ！私これ以上みてられない！」

「はあ！？あんただって、今までいじめをしてきたんじゃないの？
？」

和美はかなりきれた口調でいった。

「そっそれわ…ただ仲間外れにされなくなっただけで、私の意志
でやった訳ではないの！！」

「あっそお！それじゃあ夜由はもう解放してあげる。ただし、今日
からはあんたが…」

ターゲットだから。」

（…はあ？なんで？なんであたしがいじめられなきゃいけないの…
??）

「はっ？意味分かんないんデスケド。」

「別に、意味なんて分かんなくてもいいよwwあゝこれから楽しみだなゝ」

それからあたしはいじめられはじめた。

蹴られ、ぼこられ。助けてといっても、みんな見て見ぬふり…

それに耐えられなくなつたあたしはついに

学校の屋上から飛び降りた。そのとき、あたしのクラスは体育で外だつたからきつといじめてたやつもあたしがつぶれる瞬間を見ていたはず…

そんときのあいつら（いじめてた奴）の顔見たかつたなあゝ

まあ、こんな事があつたから今あたしはここに居るんだあゝ。

まっ、死んでちよつと後悔もしたけど、今あたしが、藍音に出逢えたのわ、死んだおかげだしね！うれしいからまあいや！！っておもえるんだよっ」

藍音がいなかったらどうなつてたんだろw

きつと、こんなに明るくはいれなかつたんだろうね。

#2 過去（憂霸ber）（後書き）

ううゝ…最後難しいですねえゝ…（o<n>o）

#3

過去（藍音ber）

「いやああー！！！！」

「！？どうしたの？大丈夫？？」

憂覇は、藍音の叫び声で起きてしまった。

「えっ？…夢か。びっくりした…」

「怖い夢でも見たの？」

「ううん。違うの…最近下界に居た時の夢をよく見てしまうの…」

「んーどんな夢なの？」

「……………」

「あっ！いいいなくなったらいわなくていいよ？」

「…あのね、私が天界に居るわけわね…」

私は、学校でいじめられていた。小学校4年ぐらいからずっと…

私は、それを相談する相手さえいなかった。お父さんとお母さんは夜遅くに帰ってくるし、先生に言っても「自分の力で何とかしてみなさい」ってゆうだけで、（どうしようもないから来てるってゆう

のに…。）と毎回思う。

そんな日が続いた。ある日、転校生が来た。「穂波鈴菜（ほなみ れいな）」って子なんだけど鈴菜は私と遊んでくれたり、いつも優しくしてくれた。

ある日、私がいじめられてる所を、鈴菜に目撃されてしまった…。鈴菜は私に気づいていたはずなのに、気づかなかったかのように通り過ぎてしまった。

私が…

そのときに思った一言はただ一つ…

――裏切られた――

そう、思った瞬間私のどこかのネジが外れた。

（私にはもう誰も信じられる人なんていない。生きていても価値のない人間なんだ…）

と思い、ついに私は決意した。

「死ぬ」ってね…。

私は、一応今までであったことを遺書として残した。
その文の中には間違っても「ありがとう」
なんて書かなかった。

そして、私は屋上から、

…飛んだ…

飛ぶ前に、ちゃんとくつを揃えておいた。（遺書も添えて。）
なんか、前にテレビでそうゆつの聞いた事あるな、とおもったので
一応ねっ！！

私はみんなの事を憎みながら飛んだ。

「……とゆうわけ。」

「……そうだったんだあ……」

憂覇は、暗い声でそう呟いた。

「ごめんね。おもい話を聞かせちゃって」

「ううん！そんなことないよっ！！私こそ、思いだしたくもない話をさせちゃって本当御免……」

「よし！もう寝よ！！それじゃお休み〜」

「あっ……うん。お休み〜！」

（やっぱり、あたしと藍音はどこかよくにてんな〜！！）

憂覇は、寝る前にそうおもった。

#4 崎之恵李（前半）

「ほら！もう時間だよ早くしないとおいでっちゃうよ！」

もう何回その言葉を聞いたことか……

藍音はおしゃれが大好きでいつもすごく時間をかけている。

それに比べてあたしはごく普通の服を着てごく普通のメイク。

藍音には、この普通つてところが気にいらなく、毎回いわれる「女の子なんだから、もうちょっと外見に気をつかわなきゃいけないよ!!」ってね。

「準備できた〜…うあ！！もう時間じゃん憂覇！早くいかなきゃ、遅刻だー」

「もう……だからあれほど「早く」っていったのに……」

藍音を待っていると、毎回遅刻してしまいそうだとドキドキの毎日だ。

「ほら！もお今日は高速で飛んでいくよ！！」

「ちじら！」

「キンコーンカーンコーン…」

「ハア。到着！あつ！えっと…ギリ…セーフ…？」

あたし達は、今日もギリでセーフだと思ったのだが…

「イヤ、今日は遅刻だ！罰として今日の放課後は掃除だからな！！
逃げるなよ?!」

「…はい。わかりましたあ…」

今日の先生は体育の厳しい松山だったので最悪だった…

「おい！お前もだぞ、崎之！！」

「…はい…」

えっ？だれ？？

あたしと藍音がふりむくと、か弱そうな女の子がいた。

あとから、その子の事を調べて見た。

名前は「崎之恵李^{さきの えり}」

同じクラスの子だった。

あたし達はまだ、学校に転校してきたばかりなので、わからなかったわけだ。

あと、なんかクラスの子とかに、ムシされているようだった。

放課後、あたし達は恵李ちゃんと一緒に掃除をした。あんまり会話がなかったのでもんな子なのかわ、わからなかったけど、ただなぜか恵李ちゃんからわゝ死くの臭いがしていた…。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9581h/>

エンジェルの仕事

2010年10月10日02時50分発行